

事故現場であなただけができること



事故現場にたまたま居合わせる、ってことがあるかもしれない。そんなとき、正しい対応の仕方を知っていることで、人の命を救える可能性があるんだよ。

まとめクイズ

Yes、Noのどちらかを選んでください

Q1. 事故現場で倒れている人がいても、救急車が来るまでは何もしないほうがいい。 Yes No

Q2. もし救急車の到着までに応急手当をして、その結果症状が悪くなっても、一般人の場合、責任を問われない。 Yes No

Q3. 交通事故現場では、負傷者の手当も重要だが、二次災害が起こらないよう、発炎筒をたいたり、ハザードランプをつけて後続車に知らせる、といった安全確保も大切である。 Yes No

Q4. 救急車を呼ぶ電話番号は110番。 Yes No



→解答は次ページに!

Q1. No

ケガの程度や部位によりますが、救急車到着までの時間に適切な応急手当をすると、1カ月後の生存率が1.5倍になる、というデータがあります。救命講習などで救急法を学んでおくと、こういうときに役に立ちます。

Q3. Yes

救助者の安全確保は重要です。安全確保をしなかったために、ケガをした人も救助に向かった人も、後続車にはねられてしまうことがあります。

Q2. Yes

応急手当を積極的にしたくない理由の1つが「手当をしたために症状が悪くなったら責任を問われるかもしれない」です。しかし、刑法及び民法で、訴えられることがないよう配慮されています。

アメリカには「グッドサマリアンロー」(善きサマリヤ人法)があります。善意で救命処置をした人は、手当のミスの責任は問われないという内容です。

交通事故現場では、何もしないことのマイナスの方がはるかに大きいのです。ためらわずに救護の手をさしのべましょう。

Q4. No

119番です。とっさのことで間違っって110番通報をしても、「交通事故です」というと、消防署に転送してくれます。

携帯電話で連絡するときは、途中で切れたり、119番につながらないことがあります。コラム2を参考にしてください。

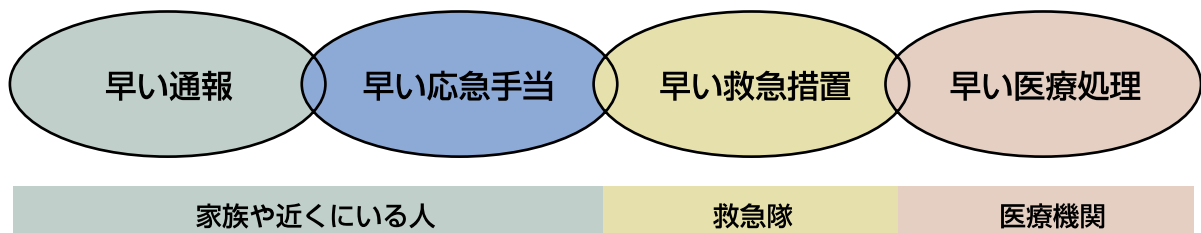


交通事故の現場に居合わせた人の「応急手当」がケガ人の救命率を高めます。

コラム
1

救急救命の鎖

救急救命は鎖に例えられています。第2の「早い応急手当」がないと、4つの鎖はうまくつながりません。



● 交通社会人として自覚をもとう！

交通事故現場では、
何もしないことのマイナスの方が大きいのです。
ためらいを捨てて、勇気を持って行動しましょう。

救急車が到着するまでの7分が重要

事故現場では、第1に「早い通報」、第2に居合わせた人による「早い応急手当」、第3に救急救命士による「早い救急措置」、第4に医療機関における「早い医療処置」が重要です。これを「救急救命の鎖」(コラム1)といいます。中でも第2の応急手当はとても重要です。

救急車が到着するまで平均7分。この間に近親者などによる応急手当を施された人は、それほど多くはありません(例:心肺機能停止者のケースでは47.6%)。「やり方がわからない」というのが大きな理由です。救急法の講習会などを利用して、心肺蘇生法やAEDの使い方などを学んでおくといいでしょう。



救急車がくるまでにできることをチェック

現場に居合わせた人が
手分けをして助けよう

他にも、負傷者を安全な場所に移動させる、後続車や周囲の人に協力をお願いするなど、できること

はたくさんあります。知らんふりをして通り過ぎるのではなく、人の命がかかっているのですから、積極的に協力するようにしましょう。

コラム
2

携帯電話で119番するときの注意ポイント

| 消防本部 | 通報する人 |
|--------------------------------|---|
| 1. 火事ですか、救急ですか？ | 救急です。 |
| 2. 何区(市)、何町、何丁目、何番、何号ですか？ | ○市(区)△△町□□番□号の★★ビルの前です。 |
| 3. どうしましたか？ | 交通事故です。 (「はさまれている」等、できるだけ内容を具体的に言ってください) |
| 4. よろしければあなたのお名前と電話番号を教えてください。 | ○○です。 電話番号は、□□□-△△△△-XXXXXです。 |

携帯電話の場合、通報者が今いる場所がわからない場合が多く、事故発生場所を聞き取るのに時間がかかる傾向があります。付近の目標となる建物や住居表示板等に表示されている所在を確認して通報することが重要です。



友だちと話す、本や資料、インターネットを使って、調べて考えてみましょう

・応急手当とはどういったものか、調べてみましょう。➡

・救急救命士とはどういった仕事か、調べてみましょう。➡

・事故現場に居合わせたことがあるか、そのときどんな対応をしたか、家族や周りの人にたずねてみましょう。➡



MESSAGE

救命は時間との勝負。安全を確認し、119番へ

岡部孝夫 東京消防庁 救急部救急指導課 課長補佐兼救急普及係長

交通事故の現場に居合わせたら、まずハザードランプなどで事故車両であることがわかるようにし、ケガ人を安全な場所に移動させ、すぐに119番通報をしてください。事故で重傷を負った人の処置は時間との勝負です。素早い通報とともに、救急隊到着までの間、その場に居合わせた人が協力しあって、救命手当を行うなどしてください。

「オートバイ同士の交通事故で左腕を骨折したライダーに、通りがかりの女子高生が、自分のマフラーと近くの木材を使用して骨折固定処置を行った」「乗用車とトラックの事故で車に閉じこめられたドライバーを高校生と社会人が協力して救出。高校生が持っていたタオルで止血処置をした」などの実例があります。

2例とも、迅速な応急手当のおかげで大事には至りませんでした。全国の消防署では、救命講習を開催していますので、ぜひ一度受講していただきたいと思ひます。